エアテックス　スプレーブース　ブラックホール　テスト結果レポート

１．テスト結果詳細

(1)　**ブースの形**

①.　**形の分類**

a.　四角（以下にそれぞれの方向からの画像を掲載する）

※正面

※側面(左)

※側面(右)

※裏面

※上面

※ブース内部（上面）

②. **見た目の感想**

a. 黒の硬いプラスチック（約８㎜厚）の板を組み合わせて作るので、がっしりした感じがする。
b. 結構重いのと、持ち手が見あたらないので持ち運びはつらそうである。
c. ブース内上部は吸入口に向かって若干斜めになっているので、上部の吸い込みはある程度期待できそうである。
d. 今回テストした塗装ブースの中では、タミヤとこのエアテックスの塗装ブースがブース内での作業を考えて設計されている。個人的にはうれしい。
e. さすがにエアブラシを専門にしているメーカーだけあって、エアブラシホルダーや回転プレート等気の利いた部品が付属しているのも個人的にはうれしい。使えるかどうかは別として。
f. 「台パネル」というの部品（プラスチックの板）が付いていて、ブース底面を延長することができる。しかし、そこでシンナーを使って作業をしたときに、はたしてそのシンナー臭を吸い込んでくれるかどうか疑問である。
g. 排気ホースは向かって右にしか出せないので、置く場所がある程度限定されそうである。
h. ファン部分の吸入口と比較しブース自体がかなり広いため、端の方の吸引力は疑わしい。
i. ファンは他の塗装ブースと同じ大きさのシロッコファンである。従って、ファン部分の吸引力は他社と同じと思われる。しかし、使用する時にはその前にプレフィルター（ＧＳＩクレオスのハニカムフィルターと機能的には同じ）が存在する為、プレフィルターの無い塗装ブース（ＷＡＶＥ、タミヤ）に比べると実際の吸引力は落ちるのではないかと思われる。
j. この塗装ブースも、キメの粗いフィルターを使用している。このフィルターで本当にフィルターの役割を果たすのか疑問。
k. 手元スイッチが付いているので便利そう。
l. ブース部分の幅は他社のブースと比較すると小さめだが、奥行きがある。机の上に置くと作業する場所が無くなるのではないか。
m. ファン部分が完全に隠れてしまうため、もし、ファン部分から排気ホースが外れてしまったら、一回バラさないと付けられないのではないか。

(2) **設置可能場所**

①. **必要な設置エリア**

a. 換気扇部分とブース部分を全て載せるには　４６０㎜×３１０㎜　のエリアが必要。
b. 「台パネル」を付けて、ブース底面を延長するならば　４６０㎜×５１０㎜　のエリアが必要。

②. **必要な場所**

a. 机に置く
ｱ) 設置する場所さえあれば安定する。しかし、この塗装ブースに限った話ではないと思うが、机に置くにはサイズが大きい。
ｲ) 机に置いた場合、作業スペースを考慮すると他の物(例えば工具箱、塗装物の乾燥台等)は置けなくなる。
ｳ) 例えば、著者の机の作業エリアはＡ４の紙１枚分くらいしかない。そこにはこの塗装ブースは置けないのである。（詳細は「別紙　（１）著者の作業机」を参照）

ｴ) ということは、必然的に塗装ブースを置くエリアは別の場所に確保しなければならない。

ｵ) この塗装ブースは、そんなに広くはないが、ブース内での作業が可能なエリアが存在する。エアブラシの「うがい」や部品の清掃なら可能だろう。

b. 床に置く

ｱ) 設置する場所さえあれば安定する。しかし、塗装作業の効率と作業姿勢を考えると、床に置くのは現実的ではない。

c. カラーボックス等の台の上に置く

ｱ) 設置する場所さえあれば安定する。著者の家にあるカラーボックスのサイズは４５０㎜×３００㎜ でありエアテックスの塗装ブースを置くと幅も奥行きも約１０㎜ くらいずつはみ出るが、だいたいぴったり収まる。こんなピッタリサイズの台はそうそうないと思われるので、最低どのくらいのエリアがあれば設置可能か、つまり安定するかを計測した。

ｲ) 塗装ブース自体は四角形であるため、どうにでも置けそうだが、構造的にファン部分が台に乗っていないと安定しない。後ろ側が重いのである。また、奥行きは最低１／２くらい台に乗っていれば置けることは置けるが、安定させたいのであれば２／３が乗っている必要があると思われる。横幅も２／３が乗っかっていれば少しは安心だろう。これらのことを考慮すると、だいたい３００㎜×２００㎜ のエリアがあればとりあえずは設置可能である。当然、設置可能なだけであって、例えば排気ホースの取り回し、手がぶつかったなどのちょっとした衝撃があると危険。（ちなみに、説明書には「必ず水平で安定した場所に設置、保管して下さい」との記載あり）

ｳ) 著者はキャスター付きのクリアチェスト（画像参照、設置可能エリアは３２０㎜×３８０㎜、約３，０００円、IRIS SUPER CLEAR CHEST）の上に置いて実験してみたが、特に触ったりしなければ問題は無い。しかもクリアケースを少し移動してみても特に問題は無かった。目線的にもちょうど良いのでおすすめ。当然、部屋の中に机、台等を置けるエリアを確保しなければならない。（画像では引き出しを正面に向けているが、横にすればもっと安定すると。）

d. 設置場所の結論としては「作業机に置くのは現実的ではないので、別の机、もしくはカラーボックス等の台に載せて使用する。また、その台のサイズは最低３００㎜×２００㎜ の設置エリアが必要。安定させて使用したい場合はこの最低サイズより大きめの設置エリアが必要である。」

(3)　**構造**

①. **ブース部分**

a.　素材

ｱ)　約８㎜の硬いプラスチックを組み合わせて作成されている。

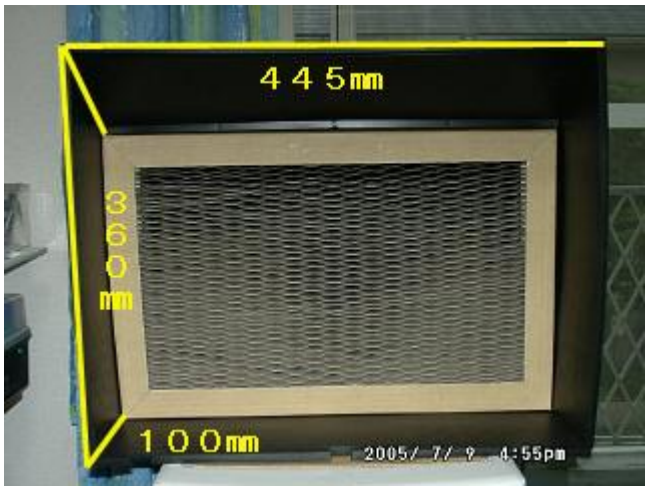
ｲ)　素材は「耐溶剤の高いＰＰ（ポリプロピレン）樹脂製」とある。

b.　色

ｱ)　色は黒。この塗装ブースは組み立てる部品が全て黒いので、他の塗装ブースと比較しても一番手元が暗い。プレフィルターで多少明るくはなる。

c.　内部の広さ

ｱ)　ブース内部の広さは、プレフィルターを付けた状態で４４５㎜×３６０㎜、奥行きはブース下部分で１００㎜、ブース上部はブース上端に向かって斜めになっている。



ｲ)　今回テストした塗装ブースの中では、タミヤの塗装ブースと同様に、ある程度ブース内部での塗装作業を考えて設計されていて、さすがに塗装工具専門メーカーという感じがする。

ｳ)　もし、対象物を回転台等に載せて、回転させながら塗装したい場合、半径５０㎜の回転が可能。しかし、回転させながら塗装するならば付属の「台プレート」を付け、その上に同じく付属の「回転プレート」を置いて塗装したい。設置するエリアがあればの話だが。（上の右側の画像が台プレートを付けた状態。クリアチェストからはみでるが、無理矢理付けてみた）

d.　底面の安定感

ｱ)　底面は４４５ｍｍ×１００㎜の広さがあり、底面のプラスチックも８㎜と厚く、今回テストした塗装ブースの中では一番安定している。

②. **フィルタ部分**

a.　素材

ｱ)　「プレフィルタ」はダンボール紙製。

ｲ)　内部のフィルタは、説明書には「ペーパーフィルター」と書いてあるが、紙ではないようだ。１枚の紙のようにカットされているので「ペーパー」と付いているのだろう。

ｳ)　素材は良く分からないが、よくダイソー等の１００円均一店で購入可能なレンジフィルターよりキメが粗い。こんなフィルターでほんとにその役目を果たしているのか疑問である。

ｴ)　説明書にはフィルターの材質については記載されていない。ちなみに著者が持っているレンジフィルターの材質は「難燃アクリル５０％、ＰＥＴ再生ポリエステル５０％」である。おそらく、同じような材質だろう。

b.　フィルタの構造

ｱ) ペーパーフィルター

1) 次の画像を参照して頂きたい。上記したがキメが粗い。

2) 換気扇の吸い込み口に両面テープで貼り付け、その上から付属のペーパーフィルターを貼り付けて使用する。（後ほどテストするが、かなりの塗料粉が排気ホースの排出口から吐き出されている。今のところ解決策を模索中である。）

3) ペーパーフィルターは５枚分しか同梱されていない。しかも、後記「費用」の項でも述べるが、５枚分のフィルターが別売りされており、税込み３１５円である。だが、今回テストした塗装ブースの中では良心的な値段ではある。

ｲ) プレフィルター

1) ＧＳＩクレオスのハニカムフィルターと機能的には同じだが、構造は少し違う。その辺りは画像を参照して欲しい。

2) 勢いのある塗料の拡散を防ぐために存在するフィルターである。

3) なぜこのようなプレフィルターが必要なのか、最初は分からなかったが、使用してはじめてその必要性が分かった。

③. **ファン部分**

a.　種類、構造

ｱ) 種類は他の塗装ブースと同様「シロッコファン」である。（シロッコファンの詳細は「別紙　（2）シロッコファン」を参照）

b.　安全性

ｱ) プレフィルターをはずしペーパーフィルターを取っても、シロッコファンのふたがあるので簡単には触ることはできない。しかし、当然のことながら小さい子供がいる家庭は注意するに越したことはない。

ｲ) シロッコファンとモーターはスチールで囲われていて、しばらく使用しているとかなり熱くなる。

ｳ) 通常に使用する場合、触れるのは背面パネルから出ているモーターの部分（おそらく放熱用）だけである。

ｴ) 説明書には「シロッコファンは使用中や使用後には熱を持ちますのでご注意ください。スプレーブースから外すときは時間を置いてから行って下さい。やけどの原因になります。」とある。

ｵ) とにかく、使用中、および、使用直後は塗装ブースの背面は触らないようにしたほうが良い。

④. **ダクト（排気ホース）部分**

a.　素材

ｱ) プラスチック製の伸縮チューブ。「樹脂製」と書いてある。

ｲ) 簡単に言うと洗濯機の排水ホースに蛇腹をつけて伸び縮みできるようにしたもの。

b.　伸縮性

ｱ) 両手を使わないと伸ばせないし、縮めることができないくらい硬い。

c.　サイズ

ｱ) 一番縮むと約５００㎜、伸ばすと１５００㎜になる。直径は６５㎜。

ｲ) 最長１５００㎜なので窓の位置によっては足りなくなる可能性がある。

d.　排気方法

ｱ) 排気ホースの先端を窓の外に出して排気する(画像参照)。つまり窓を６５㎜は開けないとならない。

ｲ) 排気ホースの長さが足りない場合「延長用排気ホース（接続ジョイント付き）」が別売りされているので、これで延長できる。長さは１５００㎜と３０００㎜の２種類がある。（接続ジョイントがどんなものか分からないが、多分上手いこと繋がるようになっているのだろう。）

ｳ) ただ、排気ホースを延長した時の排気効率（吸引力）が低下するのかどうかは説明書には記述されていない。

ｴ) 排気ホースの直径が６５㎜なので、エアコン用の排気穴が使用できるかもしれない。ただ、普通は高い位置に穴があるので、おそらく排気効率（吸引力）が落ちるのではないかと思われる。

(4) **稼働状況**

①. **起動方法**

a. 電源ケーブルの途中に手元スイッチが付いている。それで起動のＯＮ／ＯＦＦを行う。

②. **吸引力**

a. たばこの煙

ｱ) 斜めになっているブース上端部分（約７０㎜）、プレフィルターの上部分（約５０㎜）は吸引力が弱く、ブースから５０㎜離すと、煙はプレフィルター方向には行かないで上って行く。ブース直前にたばこを持っていくとかろうじてフィルタ方向に向かって吸い込まれる。これは他社の塗装ブースも同じである。たばこをプレフィルター直前に持っていくとかろうじて吸い込まれる。

ｲ) ブースの横部分もブースに近い箇所に持っていくとフィルター方向に吸い込まれるが、ブースから少し離すと吸い込まれない。

ｳ) これは、他社の塗装ブース同様、中心、つまり「フィルター（吸入口）部分で作業をする」のを心がける必要がある。

b. エアブラシ使用時

ｱ) エアブラシの噴射自体にある程度勢いがあるので、中心付近で使用すれば拡散するようなことはなく吸い込みは良い。

ｲ) この塗装ブースのプレフィルターはＧＳＩクレオスのハニカムフィルターと違い、周りに３０㎜幅のガード？がある。これはこれでブース内にピタッとはまるので個人的には好きなのだが、そのガード部分に噴射すると当然のことながら跳ね返りがある。このガードを１０㎜以下にしてもらうとうれしいのだが。おそらくプレフィルターの強度を出している物だと予想されるので幅をかえることはできないであろう。

ｳ) ハニカムフィルタ部分に普通に噴射すれば、跳ね返りは少ない。しかし、やはりブースの上部は吸い込みが弱く、強く噴射すると跳ね返って臭い。でも強くといってもコンプレッサー（Ｌ５）をＭＡＸにして、０．４㎜エアブラシを全開の約１／２の状態で噴射した場合であり、通常エアブラシを使用してこんなに強く噴射することは無いと思われる。従って、通常使用においては特に問題は無いと思われる。

c. 缶スプレー使用時

ｱ) 缶スプレーを使用する場合、これもかなりの噴射力があるが、ブースの中心付近（ペーパーフィルター部分）で使用すれば特に問題は無い。しかし、ブース上部、プレフィルターのガード部分で噴射すると、さすがに跳ね返りがあってかなり臭い。缶スプレーの使用方法として左右に動かしながら何回も噴射するので、大きな物を塗装する場合は注意が必要である。なるべく中心付近で噴射できるように工夫する必要がある。

ｲ) このエアテックスの塗装ブースに限ったことではないが、缶スプレーの使用を考慮して作られていないような気がする。

ｳ) 組立説明書には「カンスプレーなどの噴出量が多いものでは、連続して塗装しないでください。巻き返した噴霧が目に入ったり、吸い込んだり、周囲を汚してしまう原因になります。」というような缶スプレーに関する記述がある。他の塗装ブースと比較したらそのような記述があるだけ良心的ではあるが、外箱のパッケージにそのように書かないと、缶スプレーの使用をメインにしている購入者には分からないのではないだろうか。

③. **音**

a. プレフィルターがあるのでそんなに気にならないが、プレフィルターを取るとそれなりにうるさい。ＧＳＩクレオスの塗装ブースよりは静かに感じる。

b. 部屋の中で使用する分には問題は無いレベル。夜間の使用も問題ないであろう。

c. 組立説明書から数値データを以下に転記する。

ｱ) 騒音については「４５ｄＢ」とある。ちなみに、ＷＡＶＥの塗装ブースの説明書には、３３ｄＢ～３５ｄＢとある。確かにＷＡＶＥの塗装ブースよりは音が大きい感じがする。

ｲ) 風量は１１４m3／Ｈ・１１１m3／Ｈ（５０Ｈｚ・６０Ｈｚ）で、数値的には他の塗装ブースと大差はない。ただ、「風量」なので多分ファンから直接排出される分を計測したものであって、プレフィルター直前の風量ではないと考えられる。

d. 実際の音は（？？？？？）を参照のこと。

④. **フィルターの集塵能力（テスト方法の詳細は「別紙　（３）フィルターの集塵能力テスト方法」を参照）**

a. 簡単に言うと、排気ホースの先にキメの細かいフィルターをガムテープで貼り付け、２倍に希釈した４cc の塗料を全て噴いてみた。

b. 結果の画像は以下の通り。

c. 気にはなっていたが、たかだか４cc でこの通りである。これで丸一日塗装していたら、吐き出される塗料粉は相当な量になるだろう。（ちなみに、他社の塗装ブースも同じような結果となった）

(5)　**メンテナンス性**

①. **ブース部分**

a.　清掃に使用できる物

ｱ)　布、テイシュ、トイレットペーパー等、ふき取れる物。

b.　清掃に使用できる溶剤

ｱ)　当然だが水、洗剤では付着した塗料は落ちない。

ｲ)　シンナーを使用すれば落とすことができる。ブースは全て黒色であまり汚れが目立たないが、ふき取ると結構汚れている。

ｳ)　説明書には「本体のパネルは市販のラッカーシンナーなどで汚れをふき取ることができます。塗料の種類によってふき取れないものもありますのでご注意下さい。」とある。残念ながらどの塗料がそうなのか種類の記述はない。

②. **フィルタ部分**

a.　プレフィルター

ｱ)　清掃はできない。汚れたら取り替えるのみ。

ｲ)　但し、裏と表両方共（ひっくり返して）使えるので、片面の汚れが気になるのであれば裏返して使用する。

b.　ペーパーフィルター

ｱ)　これも清掃はできない。汚れたら取り替えるのみ。

ｲ)　組立説明書には「プレフィルターやペーパーフィルターは適時に交換して下さい。フィルターに塗料が多くつまると排気ができなくなり加熱、故障の原因になります。」とある。しかし、「つまった」目安が分からないのが残念。

③. **ファン部分**

a.　プレフィルターとペーパーフィルターをはずし、シロッコファンのふたを外せば、手の届く範囲ならば空拭きが可能である。しかし、ファン部分が入り組んでいるためあまりきれいにならない。どうしても清掃したいならば、一度全て分解して綿棒、歯ブラシ等を使用すれば可能。しかし、なかなか分解する決心がつかないのも事実。

b.　フィルタを通しているので、ファン部分に付着する塗料は半分粉末になっている。空拭きでもある程度塗料粉は取れるが、半分はやはりシンナーを使用しないと取れない。いずれにしろ真剣に掃除してもピカピカにはならない。

c.　説明書には、「ファンに多くの塗料が付着した状態で使用しますと、モーターに負荷がかかり、ショート、故障などの原因になります。」と記述されている。つまり、「メンテナンスフリーなのではなく、清掃が必要だ。」と言っている。当然と言えば当然ではあるのだが、清掃する目安が全然分からない。自分が「汚れた」と感じたら清掃すればよいのか。何か目安になる写真でもあれば良いのだが。

④. **ダクト（排気ホース）部分**

a.　排気ホースは樹脂製で、蛇腹になっていてしかも長いので事実上清掃は不可である。清掃できても入口、出口部分のみ。あとは外側のホコリを落とすぐらい。水洗いしても排気ホースの中をシャワー等で流すだけで、付着した塗料粉は落とせない。

⑤. **交換部品**

a.　付属部品

ｱ)　ペーパーフィルターが４枚分(合計５枚分)付属している。既にカットされているのでそのまま使用する。

ｲ)　別売りの純正フィルターは購入すると３１５円する。１００円均一店等で売っているレンジフィルターが代替可能と思われる。実際、試してみたが、純正のフィルターとレンジフィルターを比較しても特に吸引力が落ちたような感じはしなかった。

b.　購入可能部品

ｱ)　どこで購入すれば良いかの記述はない。（いずれも税込み）購入した店には置いてなかった。

1)　延長用排気ホース１５００㎜（接続ジョイント付き）　１，５７５円

2)　延長用排気ホース３０００㎜（接続ジョイント付き）　２，６２５円

3)　プレフィルター　５２５円

4)　ペーパーフィルター（５枚入り）　３１５円

5)　回転プレート　７３５円

6) クリップ　１，２６０円

7) クリップとは何であろう？同梱はされてなかった。エアテックスのＨＰで調べてみたところ、ブース上部の斜めに設置されている天版に穴が開いていてそこからクリップをぶら下げて、そこに塗装対象物をぶら下げるような感じだ。説明には「ブラックホールに取り付けるだけで、スプレーブースがドライブースとしてご使用になれます。」とある。イメージは（http://www.airbrush.co.jp/store.php?word=HOLE）を参照して頂きたい。ドライブースとなるかどうかはここではテストしない。

(6) 収納性

①. 変形度

a. ブースの変形は一切できない。変形させるとしたら、分解するしかない。

b. 換気扇部分も当然のことながら変形はできない。

c. 唯一変形可能なのは、排気ホースのみである。

d. その他の収納可能な方法

ｱ) 色々考えてみたが変形しないので収納できない。持ち運びもは可能であるが、持ち手はなく運びづらい。結論は「一度組み立てて、置いたらそのまま」である。

②. 臭気

a. 収納できないので、使用したまま二日目、１週間のプレフィルター直前の臭いを嗅いでみた。これは、他の塗装ブースも同じなのだが、使用した直後は３０分～１時間程ファンを回しておいた方がよい。部屋の中のシンナー臭とブース、フィルタに付着したシンナー臭が抜けないからである。使用後３０分位ファンを回しても１日目はさすがに少しシンナー臭が残る。しかし、二日目には臭いはあまり感じない。部屋の臭いが気になる人はフィルタをはずして密閉しておくのも良い方法かもしれない。

③. 持ち運び

a. 硬いプラスチックの板を組み合わせてできているので、持ち運ぶには若干重い。

b. 持ち運ぶ場合は塗装ブースの下を持ち上げるしかないのだが、持ち上げるとあまり頑丈ではなく、側板がはずれそうな感じがして怖い。やはり、持ち運びには向かない。

(7) 費用

①. 購入費用（いずれも税込み）

a. 定価　１３，４４０円　２割引で　１０，７５２円　３割引で　９，１１４円。

b. 今回テストした塗装ブースの中では２番目に安い。

②. 維持費

a. 上記(5)－⑤の中で一番使用するのは、やはりペーパーフィルター（５枚入り３１５円）であろう。１００円均一店で購入できるレンジフィルターを使用する等の工夫をすれば維持費としては押さえられるだろう。

b. また、プレフィルターはそんなに頻繁に交換するようなものではない。汚れても機能的には問題が無いのと、表面と裏面が使用できるため汚れが我慢できないくらい気になったらひっくり返して使用すれば、それなりの期間は使用できると思われる。

c. 消費電力は１６．５W・１５．２W（５０Ｈｚ・６０Ｈｚ）で、タワー型パソコンが約３００Wぐらいなので、使用する環境にもよるが、週末モデラーであればそんなに電気代は掛からないと思われる。

③. 費用対効果

a. 今回テストした塗装ブースの中では、材質と構造が一番しっかりしている。これでＷＡＶＥの次に安い値段なのでお得感がある。

b. 他に「台プレート」や「回転プレート」、「エアブラシホルダー×３」が付いていて、天版にもある程度物が置けるので費用対効果としては十分であろう。

c. また、プレフィルターの存在も高い評価を与えることができるだろう。交換は５２５円（税込み）で少々高めかなと思ったが、そうそう頻繁に交換するものでもなさそうなので維持費として考えた場合、損はないと思う。

d. ただ、この値段ならばもう少し吸引力が欲しかった。せっかく「台プレート」を取り付けても、そこで作業したシンナー臭は吸い込まれないからだ。

(8) **取扱説明書**

①. **ページ数**

a. Ａ３サイズ１枚に表裏印刷。合計２頁。

②. **読み易さ**

a. プラモデル等、模型を作る人にとっては全く問題ないレベル。

③. **分かり易さ**

a. 組立解説も特に難しいこともなく分かりやすい。

b. ただし、１カ所だけ組立説明書と違う部分があり、「シロッコファンの電源コードをスイッチコンセントの接続部に取り付けます。」と書いてあるのだが、箱を開けたときには既に接続されていた。

c. 他に、組立説明書に小さな紙片がホッチキス止めされていて、背面パネルの取り付け方法について、部品の方向を説明が書いてある。見た感じでは展開図を見れば何の間違いも起こさないと思うのだが、苦情でもきたのだろうか。

d. 自分のことを棚に上げて書かせてもらうが、組立説明書の天版を取り付けるところで、注意書きとして「上パネル（天版）を取り付ける前に、好みに応じてエアブラシホルダーをエアブラシホルダーネジで取り付けてください。」とある。エアブラシホルダーについては、どこにも絵が付いていない。著者はまず絵を見て天版を取り付けてしまった。そして、できあがった後に、余ったエアブラシホルダーを見てようやく上記の注意書きを見つけたのだ。説明書を最初に読まない方が悪いのだが、できればエアブラシホルダーの取り付け図をどこかに載せて欲しかった。一度はめてしまった天版を取り外すのはなかなか面倒である。

(9) **エコ度**

①. **組み立てた際に排出されるゴミの種類と量（大中小は著者の個人的判断による）**

a. 透明ビニール袋（大）　… ８枚、パネルが入っていた袋

b. 透明ビニール袋（中）　… ３枚、ファン、回転台、排気ホースが入っていた袋

c. 透明ビニール袋（小）　… １枚、説明書、ペーパーフィルタ、エアブラシホルダーが入っていた袋

d. ダンボール箱　… １箱分（サイズ５１５㎜×１３５㎜×４９０㎜）

e. ダンボール紙　… １枚

②. **廃棄する場合のゴミ分別（横浜市基準）**

a. 塗装ブース部分

ｱ) 各パネル　… プラスチックゴミ

ｲ) ミストガード　… プラスチックゴミ

ｳ) 換気扇　… 多分、家庭ゴミ

ｴ) 排気ホース　… プラスチックゴミ

ｵ) ペーパーフィルター… 家庭ゴミ

ｶ) プレフィルター　… 資源ごみ

b. 組み立てる際に出るゴミの分別

ｱ) 各ビニール袋　… プラスチックゴミ

ｲ) ダンボール箱　… 資源ごみ

ｳ) 梱包用テープ　… 家庭ゴミ

ｴ) 両面テープシール台紙…家庭ゴミ

ｵ) エアテックスカタログ…資源ゴミ

(10) **結論**

①. **買わない理由**

a. 買わない理由としては、吸引力を掲げよう。せっかくブース自体はしっかりした作りになっているのに、吸引力が今一だ。ファンのモーターのパワーを、消費電力だけで判断するのはどうかと思うが、同じプレフィルター（品名はハニカムフィルター）を使用しているＧＳＩクレオスの塗装ブース「Ｍｒ．スーパーブース」の消費電力と比較すると、約半分である。

b. 実際に使用しても吸い込みが弱いと感じる。せっかく「台プレート」がついていて、その上で使用する「回転プレート」も付いているのだが、その「台プレート」上でシンナーを使用した作業（例えば、エアブラシの清掃、うがい等）を行うと塗装ブースには吸い込まれない。（たばこの煙での吸引力テストを参照）

c. 「台プレート」を取り付けると奥行きが５１０㎜となる。それを置ける台やスペースを確保できる人は良いが、残念ながら著者の工作環境では設置する場所がない。

d. 「エアブラシホルダー」が３つ付属していて、天版に裏からネジ止めするのだが、「エラブラシホルダー」に空いているネジ穴と「エアブラシホルダーネジ」の径がどう見ても合わない。（画像参照）一本だけ取り付けてみようと思って一所懸命ネジを回してみたのだが、穴の入り口を削るのみでネジが入っていかない。取り付けるのを途中で止めてしまった。

e. 一度天版を取り付けた後に、「エアブラシホルダー」を取り付けようとして天版を外した。外す時はかなり慎重に行い、側板に付いているツメを折らないように天版をはずした。「エアブラシホルダー」の取り付けに失敗し再度、慎重に天版を取り付けたのだが、その際に側板のツメが一つ折れてしまった。結構注意して取り付けたにもかかわらず折れてしまったのだ。やはり、取り外す時に負担が掛かっていたのだろうか。ツメはあまり強くないと思われる。

f. 組み立ててから約２週間床に置いていたのだが、側板がゆがんできた。少しではあるが外にふくらんできたのだ。その間、天版に載せていたのは「台プレート」と「回転プレート」のみ。実はそんなに強くないのか。ゆがんでいても、使用するには全く問題はないのではあるが。

g. 排気ホースが１５００㎜と微妙な長さなので、例えば、ちょっと離れた窓の反対側に挟みたい場合など、排気ホースが足りないのではないか。（実際、著者の塗装環境ではいつもの場所に塗装ブースを設置すると、排気ホースが足りなかった）別パーツとして１５００㎜、３０００㎜の排気ホースがあるので、はじめから３０００㎜の排気ホースを同梱しておいて、「１５００㎜か３０００㎜のいずれかを選ぶ」という選択肢はなかったのだろうか。

②. **買う理由**

a. そんなに広くはないが、とりあえず塗装ブースの中で作業することができる。
b. 今回テストした塗装ブースの中では、一番構造的にしっかりしている。「回転プレート」、「エアブラシホルダー」が付属しているのもうれしい。しかも、天版には溝が掘られていて塗料ビン等を置くことができる。また、プレフィルターもピタッとセットできる。個人的には一番気に入った塗装ブースである。
c. プレフィルターの機能が良い。プレフィルターがあることによって塗料の拡散をある程度押さえることができる。